

26 農村の生活分析（高冷台地の一集落）

広島女子短大 鹿股寿美江

調査対象として広島県賀茂郡大和町神田地区を選んだ。選定理由は、さきの山間の零細地帯の研究に続いて、米作単作地帯の生計実態の把握を目標としてこの地域を選定した。神田地区は、2町以上7戸、1.5～2町66戸、1～1.5町270戸、5～1町302戸、3～5反101戸、1～3反87戸、1反未満13戸、平均8.8反で、広

島県の平均5反をはるかに上まわる地区である。神田地区の中、さらに二部落を選び、その一つ(A)は中以上の階層が集まっている福田部落、他(B)は中以下の階層が集まっている箱部落である。

この調査は昭和31年現地に入り、昭和32年、年間の家計簿記帳を行い、昭和33年現地の精密調査を行い、本研究は、その結果報告である。

A集落の生計基盤は、米作、乳牛、養鶴が主なるもの

であるが、乳牛飼育は日浅く、経営形態の転換期的悩みをもっている。農業生産は、1.5町以上の階層は、米が反当収穫3.7石、1町階層が3.2石、4～5反階層が2.4石、しかも投下労働量が、のべ日数において、1.5町以上の階層が220日(男2女2)、4～5反階層が、219日(女2、農繁期男1)である。のべ日数においては殆んど差を有しないが、質的差異において耕地狭少な程、労働生産性の低位を明らかに示している。